

業務部速報

申10号

No. 39

発行 13. 12. 17

JR東労組 業務部

第1回交渉・その2

働きがいのある鉄道車両製造事業の実現を求める申し入れ

第4項 J-TREC 新津事業所（仮称）の製造体制は現行体制を維持すること。

会社

- 最終的な決定は J-TREC が経営判断するが、①事業全体の把握のしやすさ ②事業所間の意思疎通のしやすさ ③横浜と新津間の交流のしやすさを踏まえ、直接部門と間接部門に分けた体制を検討している。
- 直接部門は、構体、艀装、台車の3つを考えている。間接部門は、組織体系では横浜に属するが、勤務地は新津事業所になるように検討している。
- 4/1以降の体制は内命時に説明し、事業移管時に混乱の生じないようにしていく。
- 4/1に仕事が止まることがない体制をつくることが大前提。

4/1の業務移管時は仕事を止めない！業務に支障をきたさないことを確認！！

第5項 JR 東日本として、ステンレス製車両寿命に合わせた車両製造計画を策定し、J-TREC 新津事業所に定期的な車両発注をおこなうこと。

会社

- 車両製造計画は、これまでも行ってきたところであるが、車両寿命を踏まえた置き換え計画も引き続きおこなっていく。
- ステンレス製車両の寿命は30年であり、車両置換えに伴う車両製造は新津に発注していく。
- J-TREC 内の判断で、公民鉄向け車両を新津で製造し、JR 用車両を横浜で製造する場合も想定できるが、業務量は変わらない。

JR東日本向けのステンレス車両は、新津で製造することを確認！

第6項 製造からメンテナンスまでの技術継承、品質を向上させるために、車両製造事業に携わるJR 採用者含め、JR 本体とグループ会社におけるライフサイクルを確立すること。

会社

- ライフサイクルを画一的に決めることは難しいが、車両設計などの計画業務やメンテナンスなどを経験してもらう。
- 製造事業を基本的に担う人を育成していくことに変わりはない。本人の適性や希望を聞いて丁寧に育成していく。
- メンテナンスを経験した人が、新幹線の設計をやりたいという希望を持っている場合、新潟車セでメンテナンスを経験して、J-TREC で設計を担うというケースもある。
- 技術力を高めるフィールドとして、新潟車両センターで新車検査をおこなうことを検討している。

車両製造に関する技術力を高めていくことを確認！ライフサイクルのあり方は継続議論！！

**安全で働きがいのある職場をつくるために、
要求実現に向けて交渉を継続します！！**